

基礎理論 コース



受講料……15,000 円
テキスト……A5 判 416 ページ
通信……4 回発行（2 か月に 1 回）
テストと添削……3 回（3 か月ごとに 1 回）
標準学習期間……9 か月（4 月開始の場合、4 ～ 12 月）

「私たちがどうしたらよいかを判断する場合、自分だけの経験に頼らず、多くの仲間の経験、世界中の人びとの経験、これまでの歴史的な運動の経験と教訓などに学ぶことが重要です。そのためにも基礎理論の学習が大事です。理論とは、人間のさまざまな実践の積み重ねを総括し、教訓と法則を体系的に整理したものといえます。したがって、私たちが人間らしく生きるには、それを妨げるものとたたかうには、人類がこれまで蓄積してきた実践の総括といえる理論を学ばなければなりません。たんに物知りになるというのではなく、生きるための指針、行動の指針になる科学的な理論の学習が求められています。勤通大は、この科学的な最良の理論こそが科学的社会主義の基礎理論だと考えています。」（「はじめに」より）

基礎理論コースでは、カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスがつくりあげた科学的社会主義の基礎理論を学びます。「学びがい」のあるコースです。ぜひ「科学の目」と「変革の精神」を吸収することをめざし学習をすすめていただければと思います。

第 1 部 ものの見方・考え方

学習のポイント

第 1 部では、「ものの見方・考え方」（哲学）を学びます。「哲学」というと固くて難しいという印象があるかもしれませんが、哲学のもともとの意味は「知恵を愛すること」です。

私たちにとって必要なことは、多くの情報のなかから、何が大事なのを見抜く力です。そして、真実は何かを追求する力です。そのような力をもつために、「ものの見方・考え方」という「知恵」が必要です。いま、自分らしい生き方をするためには、自分の頭で考える力が必要です。しかしそれは自分の狭い経験だけでは不十分です。自分の頭で考える力を養うためにも、人類が蓄積してきた「ものの見方・考え方」を学ぶ必要があります。

第1章 人間という存在

第1節 自然的存在としての人間

第2節 社会的存在・精神的存在としての人間

第3節 社会の歴史的発展と人間

第2章 ものの見方・考え方——唯物論と弁証法

第1節 唯物論を学ぶ

第2節 弁証法を学ぶ

第3節 認識・実践・価値

第3章 人間の社会とその歴史

第1節 人間は社会のなかで生活する

第2節 社会のしくみの唯物論的把握

第3節 人間社会の歴史的発展

第2部 資本主義経済と暮らし

学習のポイント

第2部では、私たちが生きている資本主義社会とはどのような社会なのか、資本主義社会のもとでの苦しみの根源は何か、その苦しみを解決する道筋は何か、を明らかにするため、経済学を学びます。

資本主義社会の生産関係のしくみ、搾取のしくみを解き明かし、苦しみの根源である矛盾をひきおこす経済法則を明らかにすること、そして同時にまた、この矛盾に満ちた資本主義社会が永遠につづくものではないこと、生成・発展・没落の必然性をもって新しい社会へ発展することを明らかにします。私たちは、こうした経済学を学ぶことによって、確信と展望をもって、日本社会の変革のたたかいをすすめることができます。

第4章 商品、貨幣、市場のしくみ

第1節 資本主義とはどういう社会か

第2節 商品とは何か——資本主義経済の解明の出発点

第5章 資本主義と搾取のしくみ、資本蓄積とその矛盾

第1節 資本主義社会と労働者・賃金

第2節 搾取のしくみ

第3節 労働者の増大と搾取のしくみ

第4節 資本蓄積と貧困化、恐慌

第6章 現代の資本主義

第1節 独占段階の資本主義

第2節 「新自由主義」と現代資本主義の展開

第3節 グローバル化のもとでの構造改革

第4節 新たな経済社会への展望

第3部 たたかいと社会進歩

学習のポイント

第3部では、日本の社会変革と結びつけて、社会発展の原動力である階級闘争についての基礎理論を学習します。ここで学ぶ階級闘争論とは、社会発展と階級闘争との関係を科学的に解明するものであり、かけひきのコツといった、主として経験にもとづく対処法の根底に位置づけるべきものといえます。

実践には実践の法則性があり、実践の科学があります。実践の科学とは、これまでの人間のさまざまな実践の積み重ねを総括し、教訓と法則を整理したものです。階級闘争の基礎理論は、生活向上、平和、人権と民主主義、社会発展をめざす現代におけるたたかいのための基礎理論といえます。

第7章 現代社会と社会変革

第1節 現代とはどのような時代か

第2節 現代国家の特徴と現代の民主主義

第3節 現代の社会変革と労働者・国民のたたかい

第8章 日本社会の変革をめざして

第1節 日本国憲法とは何か

第2節 戦後日本社会の支配のしくみ

第3節 日本社会の民主的変革

第9章 未来社会を考える

第1節 未来社会とこんにちの資本主義社会との関連

第2節 社会主義的変革の中心は生産手段の社会化

第3節 未来社会への道筋

過去のスクーリング動画が、以下からご覧いただけます。

※勤労者通信大学の
ホームページから
も見られます。(裏
面参照)



基礎理論コース 受講生の感想

●テキストが厚く、心配だけど

「入門コース」に続き「基礎理論コース」も受講することになりました。テキストが3倍くらい厚くなり、内容もとても難しくなりました。今からちょっと不安です。ですが、今回から学習会をしていただき3名の仲間と勉強しています。学生時代にもどって予習をきちんとしてから学びたいと思います。学生時は予習なんてしてなかったのですが、哲学はととてもとても難しいです。(宮崎、生協労連、59歳)

●資本について勉強したい

ずっと労働力を搾取される側にいるので、早くこのラットレースから抜け出すため、資本・お金について勉強してみたく、申し込みをしました。

(茨城、43歳)

●理解が深まっていく感覚に

単語や用語のひとつひとつは難しいが、よく読み込んでいくと、徐々に理解が深まっていく感覚があり、楽しんで学習にとりくめたいと思う。特に第3章の部分は自分たちの生活における身近な部分にまで言及されていて、人生の生き方を考えていくうえでも、ヒントになった。(京都、京建労、32歳)

●自分に方向性を示してくれる「人生の羅針盤」

日々仕事や活動に追われていると、自分を見失ってしまうことがあります。そんなとき、「自分の努力が足りない」「どうせ世の中は変わらない」「あの人はいくらいいってもだめ」「自分はダメダメ人間」なんて思ってしまう。社会科学の基礎理論の学習は、

そんな自分に方向性を示してくれる「人生の羅針盤」といえます。仲間たちと励ましあいながら、修了めざしてがんばります。

(神奈川、自治体職員、59歳)

●貧困問題や新自由主義が詳しく学べた

昨今の貧困問題や新自由主義のことが詳しく解説されていて、非常に勉強になりました。2年ほど前、大学生向けのイベントを開催した際に、大学生の方から「新自由主義ってなんですか」と聞かれ、まったく説明できなかったのが悔しかったので、その後インターネットなどで調べましたが理解までには至りませんでした。テキストのように新自由主義がどのような経過で、どのような作用をもたらしたのか、詳細かつ丁寧に説明されており、今回このように学びの機会を得ることができて大変うれしく思います。引き続き学習を続け、自己研鑽に励みます。

(秋田、日本共産党県委員会、36歳)

●日本の政権は頭にくる

資本主義での搾取のしくみ、資本家と労働者の関係、そして新自由主義により、労働者への攻撃、非正規の増大、おまけに自己責任として失業や貧困の原因を国民におしつけようとしている日本の政権には本当に頭にきています。労働者の団結をよりかたくするためにも、組合員を増やして組合を強くしていかないといけないと、改めて強く感じることができました。

(千葉、千葉土建、39歳)

勤労者通信大学

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター 5階

TEL 03-5842-5644 FAX 03-5842-5645

WEB <http://www.gakusyu.gr.jp/kinro.html>

E-mail kin@gakusyu.gr.jp

